

サケを全て捕ることはせず、あえて残した事実から アイヌ民族の「自然との共生への思い」に迫る授業

小学校 第4学年

単元名 「アイヌの人たちの生活と文化」

札幌市立澄川小学校 教諭 片桐 智樹

【1】単元のねらい

本単元では、「アイヌ民族が自然とともに生き、自然を大切にしている生活をしてきた」ことを子どもたちに共感的に理解させる。

そのために、アイヌ民族とカムイとの関係性（互いに支え合う存在）を捉えさせた上で、昔のアイヌ民族の衣食住や遊びなどを取り上げる。その中で、ゲストティーチャーの話や体験的な学習を取り入れながら、アイヌ民族の自然に感謝する思いや様々な生活の知恵、工夫に気付かせることができるようにした。

本時では、アイヌの人たちにとって、サケは主食であり魚の中で最も重要とされていたのにもかかわらず「アイヌの人たちは川に遡上してきたサケを全て捕ることはせず、あえて残した」事実からその理由を考えさせる。そこから、カムイとの関係性を根底にしたアイヌ民族の「自然と人間との共生」への思いに気付かせる。そして、アイヌ民族の「自然に感謝する気持ち」や「無駄にしない知恵や工夫」の価値に迫っていく。また、現代との比較から、アイヌ民族の自然観を現在の自分たちの生活とつなげて考えさせる学習にしていきたい。

【2】単元構成（6時間扱い）

1	<p>アイヌの民話を読んでみよう。カムイって？</p> <p>クマがカムイ!? カムイの存在 道具もカムイ!?</p> <p>アイヌの人たちは、人間とカムイは相互に支えあって生きていると考えていたんだね。</p>	4	<p>どうして、サケを頭からしっぽまで全部使うの？</p> <p>自然を大切に カムイからの大切なおくりもの 自然を利用</p> <p>大切なカムイからの贈り物 知恵や工夫で上手に利用していたんだね。</p>
2	<p>アイヌの暮らしを調べよう。</p> <p>衣・食・住 カムイと関係 歌・踊り</p> <p>生活の様々な場面でカムイが関係しているんだね。</p>	5 本 時	<p>どうして、アイヌの人たちは自分たちの分が足りなくてもサケを全部捕ることはしないのだろう？</p> <p>自然を残す・感謝 共に生きるカムイとの共存 無駄にしない知恵・工夫</p> <p>自然を大切に、人間と自然がいつまでも共に生きられるように考えていたんだね。</p>
3	<p>どうして、子どもたちは投げ輪突きや魚突きで遊んでいたのだろう？</p> <p>狩りや漁の訓練のため 将来のカムイとの関わり 自然と共に生きる</p> <p>生活に生かすとともにカムイについても考えているんだね。</p>	6	<p>アイヌの文化に触れてみよう。</p> <p>ムックリ演奏 いつでもカムイをアイヌ文様づくり 意識</p> <p>アイヌの伝統や文化をここまで大事に受け継いできた人たちがいるんだね。</p>

【3】本時の目標

- ・アイヌの人たちにとってサケは主食であり、魚の中で最も重要なものにもかかわらず、サケを全部捕ることはせず、あえて残した事実から問題意識をもつ。【関心・意欲・態度】
- ・アイヌの人たちの考えと現代の暮らしを比較することで、アイヌの人たちの知恵や工夫を自分たちの生活とつなげて考え、適切に表現する。【思考・判断・表現】

【4】本時の展開（5／6）

おもな学習活動	教師の関わり
<p>【前時まで】アイヌの人たちは、サケを大切な食べ物と考え、越冬の為に保存したり、食べる時は全て使い切ったりするなど様々な知恵や工夫を生かしてサケを利用していたことを学んでいる。</p>	
<p>○（あるアイヌの家族・サケ1日1匹、年間約300匹食べる）サケ漁は1回で50匹捕る 1000匹以上川に上ってきたよ！でも、50匹しかとらないの？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面設定と既習からアイヌの人々は食べ物を無駄にしないことを振り返り、アイヌの人たちが必要以上に食べ物を捕らないことに気付くようにする。 ・サケが必要数にも足りてないにもかかわらず、アイヌの人たちはサケを全部捕ることはせず、あえて残したことから問題意識を生む。
<p>その年で300匹捕れば足りるから！ 余って捨てるともったいないよ！ アイヌの人たちは食料を無駄にしないよ！</p> <p>1000匹以上いる時もあれば、20匹しかいない時も… 20匹全て捕ることはしない！ 50匹に足りてないのに！！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習や生活経験を根拠にアイヌの人たちの様々な知恵や工夫、自然界の仕組みから、アイヌの人たちが「サケをみんなで分けようとする」ことに焦点化する。 ・「自然を残す」と「知恵と工夫」の視点に分けて板書を構成し、アイヌの人たちの「自然と共に生きる」思いを浮き彫りにする。 ・現代のゴミステーションや森林伐採の資料を提示し、昔のアイヌの人たちの思いと比較する。 ・アイヌの人たちの考え方をゲストティーチャーから聞き、今の生活につなげることができないか本時を振り返る。
<p>どうして、アイヌの人たちは自分たちの分が足りなくてもサケを全部捕ることはしないのだろうか？</p>	
<p>自然を大切に残す・感謝 カムイ 無駄にしない知恵・工夫</p> <p>・人間だけのものではない ・クマやキツネの為に残す ・全て捕ったら絶滅するかも ・次また捕れるように願う ・カムイからの贈り物は取り尽くさない ・カムイに感謝をして</p> <p>カムイと共に生きる 共存</p> <p>・自分たちだけのものではない ・川上に住んでいる人の為に残す ・みんなで分けるために ・捕った分を大切に使う ・保存している分もある ・他にも食べ物がある</p> <p>自然が生きるために 人間が生きるために</p>	
<p>自然を大切にして、人間と自然がいつまでも共に生きられるように考えていたんだね。</p>	
<p>森林伐採 でも ゴミステーション 現代は…</p> <p>自然を大切にしてるのかな… 現代をアイヌの人たちはどう思うかな… 物を無駄にしていないかな…</p>	
<p>○ゲストティーチャーの話 アイヌの人たちの考え方を今の生活につなげられないかな？</p>	

【5】実践を行う上でのポイント

白老のアイヌのある家族が行っていたサケ漁を例に場面設定をする。具体的な数を提示することで、「アイヌの人たちが必要以上に食べ物を捕らなかった」理由に迫ることができる。また、ゲストティーチャーのお話は、アイヌの人たちの考え方や思いを直接知ることができる貴重な経験となり、学習内容を更に深めることができる。